

## “非核「神戸方式」決議49周年のつどい”参加記

学園都市 鈴木哲雄

ロシアのプーチン政権は、核兵器使用をほのめかし(核脅迫)、ウクライナ侵攻を続ける。北朝鮮は、弾道ミサイル発射実験を繰り返す。このような海外の動きに乗じて、日本政府(岸田政権)は、口先では「専守防衛」「非核3原則堅持」を言いながら、「抑止力の抜本的強化」を掲げ、防衛費(軍事費)を際限なく増加させつつある。神戸市議会は、1975年3月、「核兵器搭載艦船の神戸港入港拒否に関する決議」を全会一致で採択している。米国の「核の傘」と相いれないこの決議に対する攻撃が強まる中、3月18日に開催された首記“つどい”に参加した。

“つどい”では、ロシア、米国、フランス、韓国で「非核神戸方式決議」に賛同する個人、グループからのビデオメッセージが紹介された。いずれも粘り強い活動と呼びかける内容。韓国のグループを除くと、ビデオに登場した方々が年配者だったことが気がかり。北朝鮮との軍事的緊張が一段と高くなっている韓国で活動するグループには、若い人の姿もみられ、勇気ある姿に元気づけられた。

ジャーナリストの太田昌克氏(共同通信社)が、記念講演「国際秩序崩壊の帰路 核と世界、そして日本」を行った。冒頭で昨年開催された「きのこ会」誕生会の様子を話された。「きのこ会」は母親の体内で被爆し小頭症を発症した患者と家族の会。ABCC(米国機関)は、体内被曝が小頭症の原因であることを知っていたが、日本政府はそれを認めていない。続いて、取材に応じてくれた被爆者の方々の言葉が紹介された。時間経過とともに生存する被爆者が減っている。米国の戦略家や歴史家取材して得た証言(日本は核不拡散に特別の責任がある)も紹介された。昨年開催されたG7広島サミットでは、「ロシアの核使用は許されない」とG20の「核の役割低減」から大きく後退した。これに対して被爆者から怒りの声が寄せられている。

ソ連時代、ウクライナには多数の核兵器が配備されていた。ソ連崩壊、ウクライナ独立後、ウクライナは核兵器を放棄し配備されていた核兵器はブダペスト覚書(米、英、露)に基づき



非核「神戸方式」記念碑(海岸通り)  
日中友好協会兵庫県連合会 HP より

ロシアに移された。核兵器を放棄した国(ウクライナ)が核大国(ロシア)により侵略されており、従来の「核秩序」が崩壊しつつある。民間衛星の画像から、ロシア、中国が核実験場を整備している様子が伺える。核実験再開の具体的情報は確認できていないが、何等かのきっかけがあれば、ロシア、中国、米国は核実験の再開するとみるべき。

太田氏は、以下呼びかけて講演を締めくくった。私たちはこの試練に、核兵器の不使用をあきらめずに訴えよう。為政者同士の勇気ある対話を求めよう。市民の声とアイデアを大きくしよう。長崎を最後の被爆地に。

反戦・平和、原水爆禁止の集会、講演会などにこれまでも参加してきたが、今回も新たな発見、啓発される内容があった。微力ながら今後も運動に参加していきたい。